

令和4年度 学校評価【計画書】

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考
①教育課程・学習指導	各教科の授業において、語彙力を高め、表現力を向上させることができるように授業改善を図る。	各授業において、音読を多く取り入れたり、国語の「言葉の広場」の語句を習得したりする。	教務主任	語彙力が十分でないため、発表したり作文したりするときに、同じ言葉は何度も使うなど表現力が不十分である。また、深く考えずに表現することもある。	【成果指標】 各教科の授業において語彙力をつける意識を高め、表現力アップにつなげる。	「学力向上1校1プラン」の「語彙力アップ」による4つの検証項目中、達成できた項目が A 4つ B 3つ C 2つまたは1つ D 達成した項目なし	学力向上1校1プランの1学期・2学期の検証で判断する。
②生徒指導 ※いじめの未然防止	みんなが過ごしやすく、児童同士が認め合い高め合える関係が築けるよう、「温かい言葉であふれる三谷小」を目指す。 生徒指導の3機能を生かした授業作りや行事、縦割り活動に取り組み、いじめ・不登校の未然防止を図る。	みんなが過ごしやすくなる言葉を共有し、意識して使う場面を増やす。 児童会や行事と連携し、全校に伝えたり、目標に取り入れたりする。 学期に1回のアンケートと面談により児童の実態把握を行い、児童が周りとの繋がりを実感し、よりよい人間関係を築けるよう「共感的人間関係」を意識した授業づくりや行事、縦割り活動を実施する。	生徒指導主事 生徒指導主事	普段から友達と温かく関わり合い、協力することができる児童が多い。授業中だけでなく休み時間等児童同士で関わる場面や行事などで異学年と関わり合う場面でも、みんなが過ごしやすくなる言葉を増やす。 少人数で仲良く関わり合っているが、限られた人間関係の中での関係作りや、自分も相手も気持ちよく関わる居場所作りにも課題も見られる。授業だけでなく行事や縦割りを通して、安心して過ごせる場所や人間関係を増やす。	【成果指標】 みんなが過ごしやすくなる言葉（挨拶・ふわふわ言葉・プラス言葉）を使うことができる。 【努力指標】 児童が周りとの繋がりを実感し、よりよい人間関係を築けるよう「共感的人間関係」を意識した授業や行事、縦割り活動の実践を行う。	みんなが過ごしやすくなる言葉（挨拶・ふわふわ言葉・プラス言葉）を使うことができたと答える児童の上位回答の割合が、 A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満 児童が周りとの繋がりを実感し、よりよい人間関係を築けるよう、「共感的人間関係」を意識した授業や行事、縦割り活動の実践を行うことのできたと答える教職員の上位回答の割合が、 A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	7月・12月に児童を対象にアンケートを実施する。 7月・12月に教職員を対象にアンケートを実施する。
③キャリア教育・進路指導	現在の自分より少し高めの目標を設定し、その達成に向けて前向きに努力し、やり遂げた満足感を味わわせることで自己肯定感を高め、将来の夢や希望をふくらませる。	各種行事や取組等において、各学年や個人の実態に応じて、「今よりも少し上」を意識した目標を持たせ、目標が達成できるようにする。	キャリア教育担当	どのような行事や取組においても、全体的に適切な目標を設定し、努力する姿がみられる。引き続き、「現在の自分より少し高めの目標」を設定し、その達成に向けて努力できるように支援していく。	【努力目標】各種行事や取組等において、児童が「現在よりも少し高め」を意識した目標を設定し、その達成に向けて努力することができる。	各種行事や取組等において、児童が目標を立てて努力し、「記録が伸びた・成長した・目標達成に向けてがんばれた」と自己評価で上位回答した児童・教職員の割合が、 A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	7月・12月に児童・教職員対象のアンケートを実施する。
④保健管理	児童の発達段階に応じて、柔軟性の向上を中心に、バランスの良い体力向上を目指す。	器械運動領域だけでなく、準備体操やウォーミングアップ等で柔軟性を高める動きを取り入れている。	体育担当	全体的にバランスよく体力の向上が図られているが、柔軟性において、全体的に弱い傾向がみられる。	【成果指標】 体力テストにおいて、柔軟性の6項目中4項目以上、全48項目中38項目以上で県平均記録を上回る。	体力テストにおいて、柔軟性6項目中かつ全48項目中、県平均記録を突破した項目が、 A 4項目かつ38項目以上 B 3項目かつ34項目以上 C 2項目かつ29項目以上 D 1項目かつ24項目未満	体力テストを実施し、体力分析を行う。
⑤安全管理	心身の健康保持に関心をもち、メディアコントロールの意識向上に向けた指導の充実を図る。	児童委員会活動を中心に、メディア使用が及ぼす心身の健康への影響とメディアとの上手な付き合い方について関心を持ってよう働きかける。	養護教諭	昨年度の取り組みから、多くの児童がメディアの使用時間を見直すことができた一方で、継続することが難しい児童もみられる。また、タブレット使用時の姿勢が悪い児童がみられ、視力が6以下の児童や脊柱側弯症・姿勢異常と診断される児童も多い。	【成果指標】 健康に留意したメディア使用を心掛けることができる。	「健康に気をつけてメディアを使用することができた」と答えた児童の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月・12月に児童対象のアンケートを実施する。
⑥安全管理	防災の知識や意識を高め児童が自ら考え、その場に必要なより良い行動ができることを目指す。	訓練の内容や方法を工夫し事前指導で訓練の自覚をもたせ、訓練に臨む。事後指導の中に家庭との連携を図り学びを深める取組も行う。	教頭	昨年度、児童は訓練をまじめに行い、めあてを意識した行動ができたが、災害への意識を継続させるために、今年度も訓練内容や方法を工夫する必要がある。	【努力目標】 訓練の内容や方法を工夫し、児童とめあてを共有して訓練に臨む。	訓練の内容や方法を工夫し、児童とめあてを共有して訓練に臨むことができたと答える教職員の上位回答の割合が A100% B80% C60% D60%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。
⑦特別支援教育	気になる児童について、児童の困り感や特性を共通理解し、全職員で支援策を検討・共有・見直しをし、個に応じた支援体制を整える。	児童理解の会、特別支援校内委員会を定期的に実施し、支援を必要とする児童の理解を深め、個に応じた支援策を検討したり見直ししたりし、共有を図る。	特別支援教育コーディネーター	気になる児童について、毎月の児童理解の会で共通理解し、全職員で支援策を共有している。特に、学習支援が必要な児童については、情報交換をし、管理職・支援員・養教と連携し支援体制を整えている。	【努力目標】 個に応じた支援をするために、職員間で児童への共通理解を深め、支援策を検討したり見直ししたりする。	個に応じた支援をするために、児童への共通理解を深め支援策を検討したり見直ししたりできた教職員の上位回答の割合が、 A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。
⑧組織運営・業務改善	職員同士の情報交換や業務の協働を推進することにより、業務の効率化とゆとりある教育活動を行うことを目指す。	補習、授業準備、プリント印刷、丸付け、授業支援、環境整備等について教育支援員や校務員、級外職員等に支援を依頼し、業務を軽減する。	教頭	昨年度よりも学級担任が1名増え、教材準備等は少し軽減されるが、全体的には業務の平準化・効率化が必要である。	【努力目標】 支援を頼むことで業務を減らし軽減に努めることができたと答える教職員の上位回答の割合が、 A80% B70% C60% D60%未満	支援を頼むことで業務を減らし軽減に努めることができたと答える教職員の上位回答の割合が、 A80% B70% C60% D60%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。
⑨研修	国語科を中心として、語彙力の向上を図りながら、主体的に学び、「話す力・聞く力・話し合う力」をバランスよく育成する。	国語科の「話すこと・聞くこと」領域において、語彙力向上の取組を行いつつ、指導事項の確実な習得と活用を図る。	研究主任	「話す力・聞く力・話し合う力」については、全体的に高まってきている。昨年度の課題の改善を図りながら、さらなる力の向上やその活用が図られるような研究体制を構築していく。	【成果指標】 学習指導要領に示された「話すこと・聞くこと」領域の指導事項に準じた「話す・聞く・話し合う力」アンケートを実施し、定着率をみる。	「話す・聞く・話し合う力」アンケートにおいて上位回答の児童・教職員の割合が A 80%以上 B70%以上 C 60%以上 D60%未満	7月・12月に児童・教職員対象のアンケートを実施する。
⑩保護者、地域との連携	地域の良さを生かした実践を通して、児童の地域への感謝や誇り、郷土愛の心を育てる。	地域人材や地域教材を生かした授業実践を行い、児童の地域から学ぶ機会をもつ。	教頭	三谷の特色として自然や農業について学ぶ環境が整っており、地域の方が大変協力的である。コロナ禍で活動に制限は生じることが考えられるが、状況を見て規模や方法を工夫し実施する。	【成果目標】 授業で地域のの人から学ぶ機会を答え、三谷のよさを伝えることができる。	授業で地域のの人から学び、三谷のよさを伝えることができた児童・職員との上位回答割合が、 A90% B80% C60% D60%未満	7月・12月に児童・教職員対象のアンケートを実施する。
⑪教育環境整備	校舎内外の環境整備・環境美化に努め、安全で教育効果を高める教育環境の充実を図る。	日常的に危険に対する高い危機意識をもち、2か月に1回の安全点検を行う。	教頭	日々の情報交換と定期点検により、問題箇所について把握し、迅速に対応している。	【努力目標】 危険に対する意識をもち、日々の情報交換や定期点検に努め、迅速に対応することができる。	教育環境に関する情報交換や定期点検に努め、迅速に対応できたと答える教職員の上位回答割合が A100% B80% C60% D60%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。

<学校教育ビジョン>

1 学校教育目標
「夢や目標に向かって、主体的に学ぶ三谷っ子の育成」

2 (1) 目指す児童像

- ①目標達成のために自分に必要となることを考えて、粘り強く努力する子
- ②思いやりの気持ちをもち、認め合い高め合う子
- ③心身ともに健康な子

2) 目指す学校像

- ①教師と児童、教師同士が目指す姿を共有し、共に育つ学校
- ②児童も教職員も安心して笑顔で過ごせる学校
- ③保護者や地域に信頼される学校

(3) 目指す教師像

- ①協働して学び続け、共通実践を大切にする教師
- ②児童の安心と安全を第一に考えて行動する教師
- ③心身ともに健康で、笑顔で教育活動を推進する教師
- ④保護者や地域と連携して児童を育てる教師

3 今年度の重点事項

- (1) 豊かな心と健康な体を育成する教育の推進
- (2) 児童の学力向上と教師の授業力向上
- (3) 児童も教師も安心して過ごせる学校づくり
- (4) 家庭や地域との連携と郷土愛の心育成
- (5) 協働し、笑顔で教育活動を推進する教師集団づくり